

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600250		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームおびひろ栄		
所在地	帯広市西16条北1丁目25-9		
自己評価作成日	令和5年11月3日	評価結果市町村受理日	令和6年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194600250-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194600250-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・今年度管理者・計画作成担当者2名、認知症介護実践リーダー研修を受講し、研修終了していません。研修で学んだ知識を活かし、職員の育成に重点を置き、介護の質の向上を目指します。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年11月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成24年7月福祉サービス事業を営む日総ふれあいケアサービス株式会社を母体として帯広市に開設された。国道38号線の幹線沿いにあり交通量が多い地域ではあるが、隣接の企業から災害時の協力や避難場所の許諾を得ており協力関係を築いている。事業所は鉄筋コンクリート2階建てで回廊式の廊下は歩行訓練にも利用出来、冬期間の運動不足解消にも役立っている。また、一体となったホール、居間は日中の語らいの場所としてソファを配置してリラックスできるように工夫している。管理者、計画作成担当者、職員は利用者が安心して生活が出来て、笑顔が見られる日常であることを目指し介護に取り組んでいる。「笑顔で楽しい生活が出来る様に支援します」「一人一人の尊厳を大切にします」「ご家庭にも安心していただける癒しの場を提供します」「地域にとけ込んだホーム作りを目指します」を開設当初からの理念として、具現化や職員への周知を検討している。職員ミーティング会議ではケアカンファレンス、内部研修と職員の意見を取り入れ見直しや改善に取り組んでいる。利用者の健康管理にも配慮し、月1回の訪問診療、2回の訪問看護と、医療機関と連携して行っている。今、事業所ではICT化を進めており介護、生活記録等はタブレット、パソコン入力でも適宜、様子の確認や情報の共有が出来、利用者に合った適切な介護が出来るようになっていく。近いうちに外国人技能実習生が入社することになっており、更に充実した介護が出来るように取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員が目にとまりやすい位置に掲示しています。理念に基づいたサービスが提供できるよう、日々利用者とかかわっています。	開設時からの理念を玄関やリビングの目につきやすい場所に掲示し意識の下に置けるように取り組んでいるが、文章が難しい等、職員からの指摘もあり、現在検討中である。	このままでも良いとの職員もおり、管理者、職員が一緒になったの検討決定をし、共有、実践に繋げる事を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、夏祭りの行事に、職員・利用者で参加しています。地域の中で、グループホームをアピールする機会にもなっており、極力町内会の行事に参加しています。	町内会に加入し総会や行事に参加しているが、新型コロナウイルスが2類の内は参加していない。今年度5月以降は5類になり夏祭りが再開され、職員と利用者が参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	協力医療機関独自の、社会資源マップに掲載して頂いており、地域の中で、グループホームの存在をPRすることが出来ています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議は、書面開催ではなく、集話し開催しています。コロナ禍以前は、ご家族の集積は皆無であったが、ご家族の要望があり、会議の開催時間変更したことにより、1~2名のご家族の出席があり、情報交換が出来た。	今年度は利用者家族、市担当者、地域包括支援センター職員、町内会役員等の出席を得て2か月ごとの対面会議を再開している。家族から開催時間の提案があり変更し、以前よりは出席が増えている。昨年の自己評価は運営推進会議の中で出席者の評価を得ておりサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政との連絡手段として、主にメールで配信されており、日々チェックしています。提出期限を確認し、必要に応じて、問い合わせし、協力関係を築くようしています。	行政からは、主にメールでの案内や連絡があり報告、返信もメールで行っている。介護保険に関する相談や質問を電話で行う時もあり積極的に協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規採用時には、必ず事業所の身体拘束等の適正化のための指針に基づいた研修を行っています。また定期的に内部研修を行い、身体拘束を行わないケア実現のため、何が出来るかを検討しています。	身体拘束廃止に向けては適正化のための指針を作成し3か月ごとの検討委員会と年2回の研修会を開催している。夜間帯での介護や心理的虐待、職員の都合での押し付けがなされて無いか等を会議で話し合い、身体拘束の無い介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待も新規採用時に研修を行っています。虐待が発生する要因となる、職員が抱えているストレスを把握し、人員配置や業務改善して、安心して働ける職場環境を整備しています。		

ふれあいの里グループホームおびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者もいるため、制度の理解を深める必要があり、関係者との連携強化に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者・ご家族から、入居後の生活の不安を払拭できるよう、具体的にグループホームで対応できるか等お伝えしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、ご家族からの要望や苦情を受けつける体制を整えているが、実際には、投函されたことはなく、形骸化している。ご家族に電話連絡する際には、意見や要望があれば都度伺うようにしています。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話や面会時に把握するように努めており、意見箱も各フロアの入り口に設置している。家族との会話は感染症の流行中は電話連絡が主であったが、現在は元に戻っており対面での会話ができている。家族からは運営推進会議開催時間の提案等があり、変更して多数の参加を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から、運営に関する提案を聴く機会をミーティングの時間を活用しています。良いと思う事案があれば、積極的に採用するよう心掛けています。	職員の意見や提案は日常業務やミーティング会議で把握するように努めている。会議ではケアカンファレンスが主ではあるが業務、会議についての提案があり採用して運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい労働時間や日数を職員と相談し出来るだけ要望に添えるよう努めています。パート勤務を希望する職員が多く、シフト調整に苦慮することも多いが、実現できるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の新人指導マニュアルが整備されて事により、新人職員が1日の業務を振り返り、出来たこと出来なかったことを記入してもらい、指導職員がコメントし、指導に活かしている。今後特定技能実習生の採用予定もあり、管理者・職員が不安なく指導できるよう学んでいく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協立医療機関の研修会や、グループホーム協議会の研修に参加し、横のつながりを増やし、参考になる事例には、事業所で取り入れ、サービスの向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			<b>自己評価</b>		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が、困っていることや不安に思っていることを早期に聞き取り、安心してグループホームでの生活を過ごせるよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族が現在困っていることを確認し、今後サービスを利用することにより、起こりうることに對して、誠実に対応していく旨を伝え、信頼関係を構築できるよう接しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の利用者の変化を把握し、心身の状況について、ご家族に連絡しています。過剰に心配されないよう適切な言葉かけを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存能力を把握し、役割を持って活動できるよう、支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の際には、面会の制限があったが、感染症第5類に移行後は、面会外出の制限を緩和し、コロナ以前の様な面会を再開することが出来た。利用者もご家族の面会を楽しみにされており、面会時の表情を見ると、利用者にとって、ご家族の存在が貴重であると感じます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や、地域の方の面会もあり、馴染みの関係を継続されています。以前は、年賀状のやり取りをされていた利用者もいたが、認知症の進行により年賀状を書くことが困難になっている。代わりに電話等を活用し、関係が途切れないよう支援しています。	知人、友人との馴染みの関係は感染症の流行で途切れていたが、今は、戻りつつあり、主に電話で交流している。年賀状でのあいさつを行っていた利用者も書くことが難しくなり職員が協力し関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の交流を深めるよう、レク活動を行っています。他利用者との交流を好まない方もいるため孤立しないよう職員仲介し、交流する機会を途切れないようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、利用者本人とご家族との関係を継続して現状を把握しています。相談ごとがあれば、いつでも応じることが出来ることも、お伝えしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ひとりひとりの思いを尊重し、利用者の意思決定を最優先しています。職員の都合ではなく、利用者の意思を大切に、利用者の望む暮らしを支援しています。	利用者の思いや暮らしの意向は日常生活の会話の中や様子から把握し、寄り添いながら本人の希望に沿った生活が出来るように支援している。職員の都合による支援にならないよう気を付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃から利用者の生活歴を聴く機会を増やし、情報収集に努めています。ご家族から得た情報と相違している事柄もあり、修正する場合があります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ひとり一人の慣れ親しんだ習慣を尊重し、利用者が持つ能力を活かしたお手伝いをして頂いております。作業が苦手な方にも、無理強いせず一緒に作業することにより、新たな一面を発見することもあります。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・ご家族からの要望を参考にし、利用者心が心地良く生活できるよう、計画作成担当者が中心となり職員からの意見も反映しています。モニタリングも各利用者担当職員からの情報を聞き取り、実現可能なケアプランを作成しています。	介護計画は利用者、家族の要望を反映しながら概ね6か月ごとに見直しを行っている。職員ミーティング会議でカンファレンスを行い情報を共有しており、モニタリングは計画作成担当者が概ね3か月ごとに行い、ケアプラン作成に役立っている。毎日の介護記録はタブレット、パソコンで入力し情報共有が出来る。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、状態の変化を、介護記録に落とし込み、疑問点があれば、その場で解決、できるものは即実行し、話し合いが必要であれば、ミーティングの時間で課題を提案しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの枠組みにとらわれず、利用者やご家族が希望するサービスを提供できるよう、柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流が少しづつ戻りつつあり、外出する機会も増えており、利用者の笑顔を見る機会も増えている。今後は、新たな楽しみを見い出し、心が豊かになる活動を増やしたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診が、月1回あり、主治医に現在の状況を伝えることが出来る利用者もいて、服薬調整しています。専門医の受診に関しては、ご家族の協力得て、通院の対応を行っています。	かかりつけ医への受診は専門病院へは家族の協力で対応している。毎月1回の訪問診療、2回から3回の訪問看護が行われており適切な健康管理が行われている。	

ふれあいの里グループホームおびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が気づいたことを、訪問看護師に伝え、処置や通院の助言を頂いています。コロナウイルス感染時には、抗原検査を依頼すると、快く対応して頂きました。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関の入退院に関しては、連携が図れており、入院期間や退院時期の情報交換も密に取れています。他病院では、医療連携室と情報交換につとめ、利用者の状況を確認しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時には、重度化した際の指針をご説明し、利用者・ご家族の要望を聞き取りしています。看取り介護を希望される利用者・ご家族は少数であり、実際に看取り介護を実施した実績はないが、看取り介護のニーズが高まれば、学ぶ機会を設け、不安を払拭できるように、指導していきたいと思えます。	重度化した場合や終末期の対応については、利用契約時に「ご利用者が重度化した場合の対応に係る指針」で急性期における医師や医療機関との連携体制、入院期間中におけるグループホームの費用の取り扱い、看取りに関する考え方を説明し理解を得ている。現在は事業所の職員体制の問題で取り組みには至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを用意しており、特変時に活用しています。初期対応に関しては、不安な職員もおり、管理者・役職者オンコール対応し、支持を与えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策のBCPも整備されており、手順の確認を随時行っています。地域の防災訓練にも参加し、災害時の協力体制もできています。	消防計画、業務継続計画(BCP)等の策定をし、基づいて避難訓練を実施している。また、地区町内会の防災訓練に参加しており、協力体制を築いている。その他停電等の対策には防寒対策で簡易ストーブ、カセットコンロ、水、食品を用意している。建物はRC造なので地震、水害等は垂直避難で訓練を行っている。	災害避難訓練は令和5年度は未開催であり年2回以上の定期的な開催を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のひとりひとりの人格を尊重し、言葉遣いに気をつけています。不適切ケアに関して、委員会を開催し、日頃から意識づける機会になっています。	利用者の人格や誇りを損ねない介護を心がけている。特に言葉遣いには定期的に会議で取り上げ注意している。慣れてきたとき慣れ合いな言葉がけにならないよう様、注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の中には、日常の意思決定が困難な利用者もいるが、その人の思いを汲み取り、意思決定ができるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴に関しては、職員都合になっているが、その人のペースを尊重し、多少時間がかかっても、利用者のペースに職員が合わせるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者自ら更衣できる方もいて、好みの衣類を選びお洒落を楽しまれております。更衣をお手伝いする利用者にも、同じ衣類を着まわさないよう配慮しています。		

ふれあいの里グループホームおびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し、行事食の際には、利用者の食べたいものを提供しています。食器拭きや盛り付けをお手伝いして下さる利用者も多く、役割を与えられたことで、いきいきとした表情をされています。	食事は母体企業の配食サービスを利用しており管理栄養士の献立で提供している。温めるだけの日や、具材だけが配食される日と様々であり米飯とみそ汁は事業所で用意している。誕生日や行事には好みの物を調理や出前で楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の要望に沿って、食事量を調整しています。管理栄養士が作成したメニューにより、栄養バランスが充分取れています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアを行っています。ご自身で口腔ケアが困難な利用者には、介助しその方に応じて歯間ブラシ等を使用し清潔を保っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握し、定時にトイレ誘導や、パッド交換を実施しています。常に利用者の羞恥心に配慮し、排泄の失敗したことを気にされないよう配慮しています。	タブレット、パソコンでの入力で利用者一人ひとりの記録を取り時系列での状況確認やパターンを把握し誘導に役立っている。利用者の現在の状態がリアルタイムに把握できている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	タブレットで排泄状況を確認し、下剤の調整を行っています。またオリゴ糖等の食品を提供し、自然に排便が出るよう取り組んでいます。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるよう、入浴剤を利用者に選択してもらいそれぞれの、香りや色を満喫して頂いています。入浴を好まない利用者に対しても、無理強いせず、入浴を楽しめるよう、声掛けを工夫しています。	入浴は一人ひとりの状態や状況に合わせて週2回を基本として取り組んでいる。入浴剤を好まれる利用者には数種類用意し好みのものを使用している。浴槽は3方向から介助できるように設置されており2人介助も行われている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が安眠できるよう、照明や室温を管理しています。睡眠状況を把握し、眠れない場合には、無理に眠ることを勧めず、少し起きて頂き、リラックスされた後に、休んで頂いています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業所の服薬マニュアルを遵守し、各利用者が服用している薬の情報を把握し、それぞれに応じた服薬方法で、介助を行っています。薬に関して疑問があれば、かかりつけ薬局と相談できる関係が出来ています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や日課を聞き取り、その方が長年続けられている、嗜好品の購入しています。			

ふれあいの里グループホームおびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとりひとりの生活歴を聞き取り、その方が希望する場所へ外出ができるよう支援しています。コロナ禍で外出制限があったが、現在は解除しており、気分転換を兼ねて、ご家族と外出する機会も増えています。	昨年は駐車場での外気浴や付近の散歩程度であったが、感染症対策での外出制限は解除しており、希望に沿って外出は可能となっている。町内会の祭り、盆踊り大会へ参加したり家族と外出し気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に金銭の保持を利用者・ご家族と相談し、金銭の保持を決定しています。高齢であるため、金銭管理が困難であり、ほとんどが金銭を所持していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者も数名いるが、着信を気付かない方がほとんどです。職員が間に入り、かけ直しています。利用者のご家族やご友人から手紙が届くこともあり、楽しみにされている利用者もいらっしゃいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やトイレ等、利用者がわかりやすい、表示を心掛けています。季節ごとに飾りつけを変えて、季節感を演出しています。	鉄筋コンクリート造2階建てであり、回廊式になっており、ホール、多目的室等広く確保されている。トイレは各ユニット4か所に用意され、浴室も3方向からの介助が可能になっている。廊下、リビングには写真掲示や季節の飾り付けがされ、楽しく生活出来るように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中帯はリビングのソファに座り、利用者同士で、会話を楽しむ時間もあります。会話を好まない利用者もいるが、周囲に人がいることにより安心してはいるようです。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、ご自宅で使用していた家具や寝具を持ち込まれており、ご自宅同様にされている利用者が多いです。ご家族の写真やぬいぐるみを飾られています。	居室にはクローゼット、ベッドが設置され、利用者は好みの家具を自宅から持参して配置している。家族の写真や絵を飾り居心地よく生活できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全確保のため、動線部に物を置かないよう配慮しています。共用部をモップ掛けして下さる利用者もいて、建物内の清掃を担って頂いています。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600250		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームおびひろ栄		
所在地	帯広市西16条北1丁目25-9		
自己評価作成日	令和5年11月3日	評価結果市町村受理日	令和6年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・今年度管理者・計画作成担当者2名、認知症介護実践リーダー研修を受講し、研修終了していません。研修で学んだ知識を活かし、職員の育成に重点を置き、介護の質の向上を目指します。</p>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194600250-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194600250-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年11月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常時確認できるよう、目につく場所には基本理念を掲示しています。理念に基づきながら、日々の業務に当たっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長様はグループホームの利用者や職員の状況を何かと気にかけてくれており、良好な関係を築けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方でグループホームの入居申込される方が増っており、事業所の知名度が上がっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議には、ご家族の参加も数名あり、ホームの様子を直接お伝えする機会があり、ご家族の生の声を聴くことが出来、有意義な時間となった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	帯広市からの情報は、主にメール送信されており、内容確認後対応しています。訪問する機会は減少しているが、メールでやり取りが主になっています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを掲示し、3か月に1回不適切ケア委員会を開催しています。委員会終了後、議事録を作成し、日々の業務に活かしています。夜間帯では出入口の施錠しているが、日中帯では施錠しない様に、見守りを強化しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通して、学ぶ機会を創出し、理解を深めています。小さなことでも、職員間で問題点を共有し、虐待を未然に防ぐ取り組みを行っています。		

ふれあいの里グループホームおびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の定期的な訪問があり、利用者の生活を報告しています。制度の理解と活用については、職員の個人差が多く、改めて学ぶ機会を増やしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定が行われた場合には、書類を送付し同意して頂いています。不明点等の質問に対しては、納得して頂けるよう伝わりやすい言葉で、説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見箱を設置しているが、意見なく経過している。意見を言いづらいようにならないよう、気軽に相談できる関係を目指しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案に耳を傾け、実現可能な案件は上司と相談し、実現できるよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が希望する働き方を尊重し、労働時間や勤務日数の相談に応えられるよう努めています。離職なく、職員負担を軽減できる人員配置になるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加は、オンライン研修が増えたことにより、気軽に学べるようになった。これからも研修参加し、実践に繋げていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会がなく、ネットワークづくりには至っていないが、情報交換出来る関係性を築きたい。		

自己評価	外部評価	項目		外部評価	
		自己評価(2階)		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談に対し、関係者からの情報を整理し、ご本人の困りごとに対して、どの支援が有効かを検討し、入居可能か判断している。ご本人との信頼関係が強くなるよう傾聴を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に抱えているご家族の要望を傾聴し、安心してサービスが利用できるよう関係を深める。またサービス利用開始後に、ご家族が想像していた内容に相違が発生した場合には、再確認して頂けるよう説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の現在の希望に沿い聞き取りを行い、ニーズに合う支援を管理者・計画作成担当者で協議し、ご本人、ご家族ともに納得できる提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力に応じて、過剰介護にならないよう、自立支援に努めている。主人公は常に入居者様であることを自覚し、職員は脇役に徹する。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症の進行に伴い、愛するご家族のことを忘れてしまう入居者様もいらっしゃるが、今迄のご家族と過ごした日々を大切にし、ご家族、職員が情報共有し、ご本人を支える。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで築いてきたご本人の馴染みの関係が維持できるよう、面会や手紙のやり取りが継続できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を考慮した席の配慮や、孤立しないように定期的に居室を訪問し、信頼関係を構築する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、これまで築いてきた信頼関係を維持し、必要に応じた相談援助が行えるよう支援を継続する。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望、意向を聞き入れケアに取り組めるよう心掛けているが、職員本位になるところも正直ある。困難な場合には、ご家族からの情報を参考にする場合もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴から、今までに近い生活が実現できるよう、ご本人、ご家族と相談している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録から1日の過ごし方の把握に努め、ご本人の負担にならないよう、支援方法を検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、ミーティングやモニタリングを通して、意見やアイデアを出し反映しながら、介護計画作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	グループホームの役割を理解し、緊急のショートステイを受け入れ可能か検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域資源を活用しお互いに協力できるよう、地域内の活動にも参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力医療機関による月1回の訪問診療を実施し、体調管理しています。体調不良が発生した場合には、通院し、治療を行い、必要に応じ専門医の紹介も助言頂けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月1回の訪問診療を実施し、体調管理しています。体調不良が発生した場合には、通院し、治療を行い、必要に応じ専門医の紹介も助言頂けている。		

ふれあいの里グループホームおびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護実施。体調の変化を書面及び口頭で伝えていきます。受診の必要性や、褥瘡等の処置の方法をアドバイスして頂き、利用者の体調管理に貢献して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療が必要な状況の入居者様については、協力医療機関と連携し、入院受け入れの体制が整っている。早期に情報提供書を作成し、提出している。退院時には、ご家族とICにも同席し退院後の生活について意見交換しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的処置が必須でホームだの生活が困難となった場合には、今後の方向性について、主治医とご家族との話し合い、ホームでどこまで出来るか検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルは掲示しているが、訓練の実施は、滞っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。火災や地震を想定したものとなっている。また停電時を想定しての調理実施も行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としてプライドやプライバシーを損なわないよう、優しく丁寧に言葉かけを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を聞いて、衣類等を自己決定できるように促している。また、自己決定が困難な方には、表情等で汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースやADLに合わせて過ごして頂くよう努めているが、職員の都合により、その日の予定を組み込んでしまうケースもある。出来るだけ利用者のペースで1日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容でヘアカットや顔そりの支援を受けている。整髪や顔の汚れ、衣類の汚れにも注意を払い、気配りを心掛けている。		

ふれあいの里グループホームおびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は利用者と一緒にできていないが、片付けは食器拭きを手伝ってくれる方がおり、役割や生活のハリとして尊厳の保持ともなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立をもとに調理している。利用者に合わせて食事形態や食器類等を変えての対応や、栄養補助飲料の提供や好みの水分を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや介助を行っている。利用者により、義歯の噛み合わせや汚れが顕著の利用者に入れ歯安定剤の使用や、歯間ブラシの使用を歯科衛生士の指導のもと行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しながら、表情や身振りを見ながらトイレ誘導し、失禁軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用している利用者には主治医と相談し下剤の調整や、薬の変更を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中帯での入浴が基本となっている。体調不良時は様子を見て清拭での対応を行っている。ゆっくりと話せる、コミュニケーションの場せあり、それぞれ入浴を楽しまれている。また入浴拒否が継続している利用者もいるが、声掛けを工夫し、入浴が可能となるよう、職員が奮闘している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯は光や音に声、温度や湿度に気を配り安眠できるように支援している。日中も体調に考慮し、ベッドにて疲労軽減に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からのお薬情報の内容を把握できるようにしている。体調や内服薬の変更、副作用についても確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族から、なじみの習慣の聞き取り、できること、やりたいことを継続支援している。家事等の役割やご家族からの好みの飲食物の差し入れ、レク活動のボール遊び等楽しみごとで気分転換を図っている。		

ふれあいの里グループホームおびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴や花壇の花々を見に出かけるのみとなっている。ご家族と外出する利用者も数名いらっしゃる。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のほぼ全員が現金を所持していない。購入希望がある場合には、ご家族に購入をお願いしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次ぎ、会話を楽しんでいる利用者もいらっしゃる。手紙や写真も届くこともあり、心待ちにしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	24時間の空調換気、適切な温度、湿度になるよう冷暖房の調整に気を配っています。毎日の掃除により環境整備しており、季節の行事に合わせた飾りつけを行っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性や波長、ADLに合わせながら、リビングで過ごすときの座席をに配慮したことにより、会話する機会が増えている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室での使用品や置物は、ご本人が使い慣れた物や好みの物となっており、なじんでいる。安全面にも配慮した家具等を配置している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、共有スペースに手すりを設置し安全に配慮しています。居室やトイレに表札を掲示し、わかりやすく示しています。			



目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームおびひろ栄

作成日：令和 6年 3月 6日

市町村受理日：令和 6年 3月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所の理念が開設時に作成したままであり、内容も主語がなく、抽象的であり、職員に浸透していない。利用者が笑顔で生活を過ごせる場にするため、具体的な理念をつくり、職員の理解を深める。	事業所の基本理念を見直し、職員の理解を深める。	ミーティングの時間を活用し、基本理念についての項目について、それぞれの意見を発表し、集約する。職員が理念通りに行動できる文言にする。	6か月
2	35	避難訓練について、年2回実施しているが、訓練内容が固定化しており、新たな視点で、実情に応じた訓練を実施する。	災害対策及び避難訓練の内容を充実させる。	自然災害発生時に慌てずに行動が出来るよう、訓練を通して学び、反省点を踏まえ、さらに理解を深められるようにする。	6か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。